

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277101883		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム一葉の家 (1号館・2号館・3号館)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町217番地		
自己評価作成日	平成23年9月10日	評価結果市町村受理日	平成23年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277101883&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277101883&SC)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年10月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平屋建てで開放感があり、居間の天窓から心地よい風が入る。3ユニットの交流が自由にでき、広い敷地には畑が広がり季節に応じた野菜の収穫を楽しむことが出来る  
毎月、ご本人の希望で自由に参加出来る3~4回の企画があり、老人クラブやボランティアの方々による催しや、カラオケにより、毎日の楽しみ場となっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

訪問時、管理者をはじめとする職員が笑顔で温かく出迎えてくれる事業所である。敷地内には広大な畑が広がり、コスモスなど季節の花がそよ風に揺れ、その風景を眺めているだけで和やかな気持ちになれる。納涼祭は事業所の一大イベントであり、わたがし・焼きそば・フルーツポンチ・お好み焼きなど多数用意し、訪れる人たちをもてなしている。また、通りがかった近隣住民にも声をかけ、事業所を知ってもらうのよい機会となっている。日頃のボランティア活動だけにとまらず運営推進会議や防災訓練の参加などの地域交流には老人クラブの協力が得られ、事業の充実に繋がっている。このような地域住民との親密さに併せ、管理者と職員のチームワークも良く、利用者をいかに喜ばせることができるかを考え、支援に尽力している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所の目に付くところに掲示し、その理念を共有し実践に心がけている。また、職員会議にて、一人ひとりの実践への取り組みを話し合っている。	わかりやすく日常に馴染むものを意識して作成された理念は、業務より利用者との関わりを少しでも多く持つということが軸に置かれている。職員が利用者に寄り添う姿が随所で見られたことから理念が浸透していることが確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を回してもらったり、行事に参加させていただいている。また、事業所の行事には老人クラブの方に参加していただいております。	散歩中に挨拶を交わすことは勿論のこと、地域の祭りに参加したり、納涼祭に地域住民を招き交流を図っている。毎月3～4種類の企画を設け、老人クラブの皆さんにも協力して頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の施設学習の受け入れや、老人クラブ・ボランティア等の協力により交流を持ち理解や支援を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施しており、事業所の取り組み状況や報告・意見交換を行っている。また、職員会議にて話し合いサービス向上に活かしている。	運営推進会議の回数を重ねる中で信頼関係を築き上げ、様々な意見をもらっている。また、今年は自治会へ防災訓練の参加をお願いし、実現することができた。会議テーマによっては、消防署にも参加してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を取り合っている。また、介護相談員が月1回来設されており協力関係を築くよう取り組んでいる。	日頃から区役所へ足を運ぶ機会が多くあり、担当職員と円滑なコミュニケーションが取れている。今年は区役所から施設見学の依頼が入っている。市主催の研修にもできるだけ参加し、積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて身体拘束をしないケアについて学んでおり、見守りを重視したケアに取り組んでいる。	利用者の安全を確保するために、職員が手薄になる時間帯のみ施錠している。また、エスケープの事例から手順書を作成しはじめ、事故防止に対する取り組みに着手しつつある。声かけについては管理者が職員にフォローを入れ気をつけている。	エスケープに関しては、さらに事故再発防止のためのマニュアルを作成し、活用することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員研修や講習会において学んでおり、実践に活かし虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修で学んでいる。ご家族より、制度利用の要望があれば、話し合いを持ち、準備から申請までの支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約文書は必ず説明を行い、不安や疑問点・生活に対する要求等を聞き理解・納得された上で契約できるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でも話し合いを持っている。また、苦情や意見箱を設けており、利用者や家族から意見や要望が聞かれた場合職員会議等で話し合いを持ち、改善できるように取り組んでいる。	運営推進会議の中で「利用者は居室を一步出たらそこが地域社会である」という声をもらい、家族の協力を得ながら利用者同士が仲良く暮らせるよう行事を盛り上げている。また、会議は参加してよかったと思ってもらえるような内容を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	三者面談や個人面談にて、職員一人ひとりの意見や要望を聞き、改善できるように話し合いを持っている。	「大丈夫よ」「気をつけてね」など職員を想う気持ちが言葉に表れている。また管理者は適材適所を意識し、職員がやりがいを持って働けるよう配慮している。管理者がまず笑顔でいることが職員の笑顔を引き出している。	「今月の笑顔賞」と題して最も笑顔が輝いていた職員を賞し、ねぎらうと共にさらに笑顔が溢れる職場となることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働き続けられるように個々に応じた勤務調整や、研修への参加、勉強会を行い向上心がもてるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の研修や定期的な事業所の研修、レポート研修があり、勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	総会や研修・地域情報交流会の参加を通して交流を計り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安に思っていることや要望に耳を傾け、納得できるように本人と話し合いを持ち、安心して過ごすことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分な話し合いを持ち、困っていることや要望を聞き、希望は出来るだけ沿うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から困っていることや、必要としている支援を把握し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における、掃除・洗濯・食事の準備等、できる事は一緒に行い、共に暮らしていく関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の気持ちを十分理解し、生活状況の報告を行い、話し合いを持ち、関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの方に来ていただいたり、電話支援をしている。	野菜を市場に出していた利用者が畑の手入れを行ったり、友人が美容院へ連れ出してくれたり関係継続は様々である。また、入居前は家族とぎこちなかったが今では毎週のように面会に来られるほど円滑になったケースもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流出来るように、イベント等の企画、ゲームやカラオケに参加を促したり、会話の時間を作ったりと、関わりが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要により電話・訪問・面会に行ったり、相談はいつでも受けるよう支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を会話の中から、把握につとめ、困難な場合は、表情や行動から把握するようにしている。	利用者が寂しい思いをしないよう、表情を観察しながら関わることを心がけている。職員は日々の気づきを業務日誌に、看護師も介護記録に記載し、利用者の様子を細かく把握できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・暮らし方等の情報収集を行い、個人ファイルやカンファレンスにて把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、申し送りを行い、週1回のカンファレンスにおいて情報交換をし、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの暮らし・課題・要望・ケアのあり方等を本人・家族と話し合い、カンファレンスにて検討し介護計画を作成している。	モニタリングは1ヶ月に1回計画作成者が職員の意見を反映させながら行い、プランは計画作成者とケアマネが6ヶ月に1回作成している。サマリ担当が日々の様子を記録しており、細かい情報を把握しやすくなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を職員間で情報交換し、個別記録に記入している。また、カンファレンスで話し合い、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の把握と、その時々ニーズに対応して、本人が居心地よく生活できるように柔軟な支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館や地域のボランティアと連絡を取り合い、生活を楽しむことができるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人や家族の希望により、以前からのかかりつけ医に受診支援をしている方もいる。また、納得が得られた方は協力医療機関に受診や往診支援をしており、受診内容は申し送りノートに記入している。	看護師が常駐しているため主治医との連携がスムーズであり、職員もわからないことをすぐに解消できる。受診記録は申し送りノートに記載し、職員は情報を共有し、有事に備えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	職員として看護師を配置しており、利用者の健康状態を把握し、24時間体制で連絡がとれ、必要により指示・相談ができ、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、今までの情報を医療機関に説明し、情報交換を行い、早期に退院できるように連絡を取り合うようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族から意向を聞き、主治医と相談をし、必要な関係者と話し合いを持ち、方針を決め支援に取り組んでいる。	医療行為が必要ない場合は看取りに取り組む考えがあり、2件の実績がある。看取り同意書、看取り計画書、カンファレンスと独自の書式を揃えている。職員も毎月ターミナルケアについて話し合う時間を設け、どんな支援ができるかを考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所での定期的な研修や勉強会を行い、対応出来るように努力している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消火器の取り扱い・応急処置等の訓練を行なっている。また、消防署の職員の協力により、訓練方法の見直しも行っている。	今年は老人クラブや自治副会長に参加してもらい訓練を行った。運営推進会議での話し合いを重ねた結果、災害時すぐに持ち出せるよう個人情報(血液型・薬情などを含む)を名札カードサイズに収めたものを作成した。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議やカンファレンスでも話し合い、一人ひとりの人格の尊重し、誇りやプライバシーが守られるように意識向上に努めている。また、言動に気が付があれば、その場で注意しあっている。	利用者同士の関係が円滑になるよう、行動をよく観察しつつ職員が間に入ることがある。利用者の言動を肯定的に捉える職員の姿が頻繁に見られ、尊重する気持ちが表れている様子を確認できた。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多くもち、希望や思いを聞き、納得して暮らすことが出来るように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがどのような生活を望んでいるのかを把握し、趣味や希望に沿って、出来るだけ生活を楽しめるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服や、その日の気分により、自分で選んで着ることが出来るように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に出来る準備や片付けは、一緒に行い、盛り付けを考え、楽しんでもらえるように支援している。また、事業所の畑と一緒にとりに行き、季節感が味わえるように支援している。	主菜の他副菜が3品以上と豊富な内容で彩り豊かに盛り付けられている。業者から届く半製品にひと手間加え、さらに職員が家庭菜園で育てた野菜やホームで収穫した野菜も使用し、家庭の味を十分に味わえる食事を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量をチェック表に記入し、一人ひとりの状態や必要により、食事形態の変更をしている。また、不足時には栄養補助食品にて補っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、個々に応じた声かけ、誘導を行い、うがいや歯磨き、入れ歯の洗浄を実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄状態を把握し、一人ひとりに応じたパターンで声かけや誘導を行い、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。	排泄パターンを把握し利用者に合わせた誘導を行い、トイレでの排泄を促している。これにより排泄の状態が維持できている利用者が多い。また排便についても、便意の有無に関わらず朝はトイレに座る習慣づけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態の把握と、水分補給に注意し、体を動かす機会を作り対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているが、本人の状況により変更している。また、一人ひとりがゆっくり入浴することが出来るように支援している。	1日おきに入浴している。浴室は換気扇、サッシの細部にわたり清掃が行き届いている。また、少しの水でも転倒の危険が生じると想定し、ふき取りを徹底している。入浴中は利用者と職員の会話が弾む時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は声かけにて活動を促し、夜間眠れるように支援している。また、状況に応じて休息出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表の使用と、変更時は申し送りノートで、服薬についての理解が出来るように努め、症状の観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを把握し、声かけを行い、役割を持っていただいている。また、イベント等で気分転換や、楽しみ場となるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聞き、散歩や買い物が出来るように支援している。また、家族と連絡を取り合い、外出支援をしている。	家族が買い物や外食へ連れ出してくれる他、ホームでは外食・ドライブ(桜・モクレン・ツツジなどの花見)を春と秋の年2回行い、利用者を楽しませている。天気の良い日は近所へ散歩に出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持して買い物ができる方には、職員が付き添い、希望のものが買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望により、手紙のやり取りや、電話の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や壁には行事の写真・習字等を掲示し、その季節に応じた花を飾り、温度調節を行い居心地よく過ごすことが出来るように支援している。また、夏には居間の窓にレースのグリーンカーテンを作り季節感を味わえるようにしている。	食材を切る音、台所から流れてくる調理中のおいも生活の一部として利用者にも感じてもらうことを大切にしている。また、庭にある花をさりげなく飾ることにより、季節を感じてもらえるようにしている。利用者が安全に過ごせるよう物品を整理整頓している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテレビとソファがあり、テレビを見たり新聞を読んだり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や、思い出のある物を持ち込み、居心地よく生活できるように努めている。	仏壇・テレビ・筆筒・ぬいぐるみ・家族の写真等それぞれ思い思いの馴染みのものを持ち込んでいる。窓からも眺めのいい景色が拡がり落ち着いた空間を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態により、居室のドアに目印をつけたり、テーブルの座席の位置を考え、出来るだけ安全な生活が送れるように工夫している。		